

第11回 漢方治療研究会

講演要旨集

日時 平成13年9月23日(日) 9:00~17:30

会場 順天堂大学 有山記念館講堂

東京都文京区本郷2-1-1

☎ 03-3813-3111

主催 東亜医学協会

後援 日本東洋医学会

5. 唾石散料(修琴堂経験方)により 唾石の排石をした2例

慶應義塾大学医学部東洋医学講座 ○渡 辺 賢 治
北里研究所東洋医学総合研究所 花 輪 壽 彦

【緒 言】 唾石は唾液腺に石の形成が起こる疾患でしばしば痛み、不快感を伴ない、手術の適応となる疾患である。唾石に対しては、大塚敬節により創方された唾石散料がある。今回、この唾石散料を用いて唾石の排石をみた2例を経験したので報告する。

【症例1】 60歳女性。

〔主訴〕 口腔内の痛み。

〔現病歴〕 平成12年8月15日、口腔内の痛みに気づき近医耳鼻科を受診したところ、唾石と診断された。手術を勧められたが放置。抗生剤の投与を受けたところ、8月18日より悪寒・戦慄が出現し、同時に腹痛も出現した。有形軟便の排便後に粘血を認めため、9月9日消化器内科を受診したところ、虚血性大腸炎と診断され、投薬を受けた。胃腸症状は改善したが、唾液腺部の痛みが取れず、10月31日に北里研究所東洋医学総合研究所漢方外来を受診した。

〔現症〕 142cm、52kg。左下顎にやや硬い腫瘤を認めた。舌は乾で、厚い白苔を認めた。腹診上、右臍傍の圧痛を認めたが、他の所見は認めなかった。

〔経過〕 唾石散料(修琴堂経験方)を投与。3週間服用の後、唾石部の腫脹がやや縮小したようだと言う。後鼻漏があるため、辛夷3gを加え、さらに3週間投与したところ、唾石部は気にならなくなり、近医で再検したCT上、唾石は認められなかった。

【症例2】 21歳女性、医学部学生。

〔主訴〕 左顎下部の疼痛。

〔現病歴〕 同年3月より左顎下部の疼痛があり、耳鼻科受診したところ、超音波検査上唾石が2個認められ、手術を勧められた。

〔現症〕 163cm、48kg。左顎下部に腫脹と圧痛を認める。

〔経過〕 平成13年4月2日、大塚医院受診。唾石散料(修琴堂経験方)を2週間投与した。4月18日、石が一つ排石されたとのことであったが、もう一つの唾石が残って

いて違和感が残るため、さらに3週間投与した。5月9日、残り一つがなかなか取れずに軽度の痛みが残るので、5月9日、唾石散料に甘草1.5gを加味し処方した。5月26日、違和感が大分取れたが、さらに1週間処方した。耳鼻科受診したところ、超音波検査上唾石は認められず、治療を終了した。

【考 案】 唾石散料は字の如く唾石に対して、大塚敬節が工夫して創方した処方である。口腔内の諸疾患にしばしば用いられる枳実芍薬散をベースとして山梔子の加わった三味からなる処方構成の簡単な薬であるが、手術を勧められている2例に比較的短時間で排石したことは、改めて唾石散料の効果を実感し得た症例であった。